

5. 過去にあった特徴的な万引犯罪事例

この設問に対する回答そのものの件数は多くないが、回答に表われた特徴的な万引犯罪事例は、大別して「万引犯の属性」に関するもの、「手口」に関するもの、「対象商品」に関するもの、となる。

(1)犯人の属性

①外国人による犯罪

最も多く指摘されているのは外国人による万引の激増であり、しかも複数犯による組織的な犯行が多く報告されている。手口としては見張り役、運転手、実行役などと予め役割分担がなされた計画的・組織的なものであったり、対象商品も換金性の高い（CD・DVD等）、高額商品（高級ウイスキー、カーナビ等）、あるいは海外で価値の高い特定商品（例えば日本製のカミソリの刃）が対象となっている。また、犯行にはナイフ、鉄パイプなどが準備され、確保に向かった警備員等が受傷の危険がある場合も多いと報告されている。

②高齢者、職人、暴力団関係者等への拡大

従来一般的であった主婦、中高生等から、高齢者による万引、業務用に用いる商品を万引する職人、食堂業従事者等への拡大が報告されている。万引を「商品仕入」と嘯いて実行しているケースもあるという。一方、万引犯を確保したところ、刺青を見せられてすごまれた、などという事例も報告されている。

③病人

心身に障害を持つ人々による万引行為が多く報告されており、刑事責任を問えないケースも多いことから苦慮する小売業・サービス業事業者も多いようである。

④その他

母親と娘、両親と兄弟などといった組み合わせの「家族万引」の漸増も報告されている。

(2)万引犯の手口

回答の中で多く取り上げられているのは、以下のような事例である。

① 自動車を使ったチームプレー

エンジンを始動させた車を店外に準備し、レジをダッシュして抜けた実行役を拾って猛スピードで走り去る手口。ナンバープレートは予め違法にマスキングされており、捕まらないケースが多いとのことである。

② いわゆる「カゴ抜け」

カゴあるいはカートに入れた商品をレジ精算せずに店外に持ち出す手口。一部だけ支払って堂々と出て行くケースも報告されている。一般人がカゴ抜けに手を出すことを嘆いた報告もある。

③履き替え、重ね着

売り場の靴を自ら履いてきた靴と履き替えてレジ精算せずに出て行く手口。また、売り

場の衣料品を自分の着てきた衣料品の下に着込んでレジ精算せずに出て行く手口。売り場では「靴の片方陳列」等でこれに対抗するケースがある。

④その他

その他、複数犯で一人が接客を求めて店員を牽制している間に他の一人が大量に万引するケース、従業員に成りすまして倉庫まで忍び込み、大量に盗み出す手口。店員あるいは保安員などをヒッカケて万引犯と誤認させ、慰謝料を要求する手口などが報告されている。

(3) 対象商品

対象商品として多く挙げられているのは「高額」、「コンパクト」、「換金性に富む」商品だが、中には特異なケースとして、60cm×30cmの大型商品の万引、鍵の掛かったままのガラスケースからの時計の盗難、などがある。

6. 万引犯罪を減らすために有効な方法

自由回答に表われた企業の万引犯罪対策は件数こそ多くはないものの、設備・機械等ハードによるもの、従業員の店内行動等、ソフトによるもの等、多岐にわたっている。また今回のアンケート調査票そのものによって、対策の示唆を得た、とするものもある。

(1) ハード対策

多くの回答企業が取り組んでいるのが「棚・ Gondola の低層化」であり、見通しを良くすることによって、かなりの被害減を実現したとの報告もある。同様に通路幅の拡張、店内の整理整頓、清潔感、照明のルクス・アップ等により好成績を得たとの報告もある。

また「万引防止機」の導入により、かなり長期にわたって抑止効果を得たという報告もある。

(2) ソフト対策

ソフト対策の根幹は「お客様への声掛け」であり、おびたしい回答企業がこれを挙げている。次いで多いのが「マネージャークラスの従業員による店内の巡回」である。責任者が店舗の出入りに立つだけで効果が上がるとする報告もある。「活気のある売り場が万引を抑制する」との意見もある。

次に、「万引被害に関する情報を店舗従業員が共有することが連帯感を生み、万引されにくい雰囲気醸成する」との意見がある。この情報共有は「隣接店、近隣店」とも行うべきだ、という意見もある。

7. 警察・行政・学校・家族等への要望事項

(1)警察

万引犯罪被害を減らすため、警察に対する要望を尋ねた結果は、例示として取り上げた「通報ルール・処理ルールの標準化」に多少引きずられた面があり、おびただしい件数の回答企業がこれを挙げている。その要望には、回答企業が現実的に関わって費やした時間と人手と効果が書き込まれてあり、「5時間調書をとられて成果は無かった」、「書類作成が煩瑣で次回からは見合わせようと思った」などの率直な意見が述べられている。

そもそも「被害届を出しますか?」といった警察官の対応や「通報しに行ったら交番が留守であった」等、入口の不満が報告されている。

「検挙に勝る防犯無し」というフレーズを挙げて、万引犯罪に対する警察力の強化を望む声がある。

次に、「警察官による店舗パトロール」を要望する声が極めて高い。また、その万引犯罪抑止効果を挙げた声も多い。

さらに、警察は「万引は微罪だという意識を早く捨ててほしい」との声も多く書き込まれている。

(2)行政

回答企業が行政に強く望んでいるのは「窃盗罪の罰則強化」であり、罰金刑の新設等による犯罪抑止効果である。

また、「防犯ボランティア2万団体時代を迎えて、彼らがもっと実効性のある活動のできる基盤づくりを!」との声もある。

さらに、「防犯行政を司るのは国であるが、地方公共団体は地域の実情を踏まえた実戦部隊として一歩前に踏み出すべきだ」との地方自治体に向けた要望も述べられている。

(3)学校

回答企業が学校に強く望んでいるのは、「学校あるいは教師が地域社会の中に飛び出して生徒が地域社会の中でどう振舞っているのかをもっと知る必要がある」ということである。具体的には、「学校の先生は放課後地域社会の中の小売商業施設等を巡回してほしい」との要望が寄せられている。

また、県警とのコラボレーションにより「万引防止教室」を実施し、効果を挙げている地域から、同様の教室の開催を勧める声もある。

(4)家族

回答企業から家族への要望事項は、万引犯罪防止に果たす家族の役割の重さに鑑み、家庭教育をあきらめないでほしい、とするものである。

また、警察や学校に対すると同様に、家族に対しても「地域社会の中に積極的に飛び出し、自らの子供たちが触れている環境をつぶさに知って欲しい」、との要望が寄せられている。